

現代中国像の原点

中嶋嶺雄著作選集1

中嶋嶺雄著 (桜美林大学北東アジア総合研究所・4500円+税)



中嶋嶺雄氏には2つの顔があった。現代中国の第一級の研究者として、そして「大学改革」の先駆者としてのそれである。秋田に創設された国際教養大に心血を注ぎ、一昨年2月、道半ばで急逝したときの衝撃は忘れられない。

あれから2年余、氏の著作選集の刊行が始まった。全8巻、まず、第1巻『現代中国像の原点』と第4巻『北京・モスクワ秘史』(3800円+税)ができてあがり、『大学

教育革命』(第7巻)などが順次出版の運びだ。

編集は氏が教授、学長をつとめた東京外国語大の中嶋ゼミOB有志が当たった。11

9冊の著作、5千件を超す新聞雑誌への寄稿や対談・座談会など膨大な作品群の目録作成から始め、早期刊行を果たす。教え子たちの結束力には驚かされる。

代表の勝又美智雄国際教養大教授は「収録数は全体の1割にもなりません。後世に残すべきものを厳選し、多くの読者に中国を、国際関係を、

さらに教育問題を考えるうえで指針となるよう心がけた」という。最終8巻には、バイオリンや水彩画が得意だった中嶋氏の音楽論、芸術論、人生論などを収め、幅広い人物像を浮き彫りにする。

新潟県立大の猪口孝学長はその幅広い教養や親しみやすい人柄から「人間の顔をした学長」と形容し、「こういう学長が日本に百人いれば大学もいい方向に変わる」と推薦文を寄せた。労を惜しまず教職員や学生の声に耳を傾け、改革案を練った姿である。

評・平山一城

(編集委員)

それは半世紀に及ぶ中国研究の姿勢そのものでもある。

左翼全盛の論壇が賛美する文化大革命を、自らの目で検証して「究極の権力闘争」と断じ、動じなかった。「鋭敏な現実感覚と真の勇気をもつ知識人であったことを、著作集を通して知ってほしい」。渡辺利夫拓殖大総長の言葉は、強権で海外進出する現在の中国を考察する際の心構えを念頭にしたものだろう。

国際情勢を捉え、「大学にさらなる競争力を」と最期まで奔走した中嶋氏の著作は、グローバル時代の日本の若い学徒に大きな示唆を与えるはずだ。

鋭敏な現実感覚と真の勇氣